

CLEAN project

～リサイクルで海を守ろう～

GREEN project

1. 企画概要

広島県内にはどのような漂流物があるかを調査し、雑誌にまとめる。さらに、ペットボトルやシーグラス等海岸に落ちているものを使ってできる工作物を考え、ワークショップを開き、実際に体験してもらいながら環境保全と海のゴミにはどのようなものがあるかについて大学周辺の地域の人々に伝える。

2. 活動内容

2-1 海岸調査・雑誌の作成

- ・8月に大野浦、宮島、かるが浜、水尻の4つの海岸で調査を行いゴミや漂流物などの実態を調査した。
- ・ワークショップで利用する空き瓶やペットボトル、貝殻などを回収した。
- ・海岸調査をもとに漂流物やゴミが生き物へどのような影響を与えているかを伝えるために作成した。

2-2 ワークショップの内容

第1回：10月1日（日）場所：廿日市環境フェスタ

- ・主に小学生を対象としてペットボトルや海岸のシーグラスを用いたワークショップを開催した。
- ・参加者80人のうち77人がアンケートに解答して頂くことができた。
- ・工作を通じて海岸の実態を伝えると共に、海岸調査についてまとめたポスターを使った解説によって、海の環境保全と海にどのようなゴミがあるかについて理解してもらうことができた。



図1 ワークショップの様子

第2回：11月28日（日）場所：広島工業大学

- ・事前に地域の小学校（五日市中央小学校、五日市観音小学校、なぎさ公園小学校、五日市小学校）にチラシを配布して参加者を募り、当日は小学6年生以下約50人が参加した。



図2 ワークショップの様子

3. ワークショップのアンケート結果

第1回目のアンケート結果(対象者：77人)

Q1 工作の説明は分かりやすかったですか？(図3)

【はい】76人

- ・優しく丁寧に教えてくれた。
- ・楽しく簡単に作ることができた。

【いいえ】1人

- ・小さな子供には分かりにくかった。

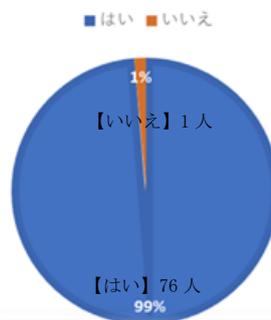


図3

第2回目のアンケート結果(対象者40人)

Q1 工作の説明は分かりやすかったですか？(図4)

【はい】40人(図4)

- ・会話をたくさんしてくれた。
- ・とても分かりやすく説明してくれた。

- ・小さな子供も工作をさせてもらえてうれしかった。

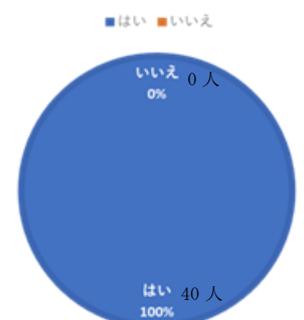


図4

「工作の説明は分かりやすかったですか？」という質問に対して「はい」と回答した人が多かったが、「もう少し笑って下さい」という意見もあったことから、子供への対応が難しかったという課題もあるが概ね参加者には楽しく工作に取り組んでもらえたと考えられる。

Q2 これらのゴミを拾おうと思いますか (図 5)

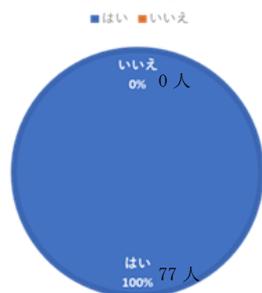


図 5

【はい】 77 人

- ・海のゴミで工作できたからやってみようと思った。
- ・家庭でもできそう。

Q2 海岸のゴミに対する意識は変わったか? (図 6)

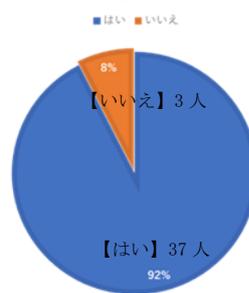


図 6

【はい】 37 人

- ・海の生き物が死んでしまうから
- ・ゴミを減らして生き物を守りたい

【いいえ】 3 人

- ・質問の意味が難しかった。
- ・もう少し小さい子が分かる質問にしてほしい

第 2 回目のワークショップにおいては、参加者の海岸にあるゴミに対する意識の変化を知るために「海岸のごみに対する意識は変わったか?」という質問を追加した。その結果、約 9 割の参加者から「意識が変わった」という回答を得ることができた。アンケート結果から「小学生に対しては少し分かりにくい質問である」という意見はあったものの、海岸にあるゴミへの関心は高まったと考えられる。

5. まとめ・反省点

【反省点】

- ・海岸の漂流物をワークショップの材料として扱うのが難しく実際に工作教室で使えた海岸のゴミは、ほんの一部であった。
- ・第 2 回目のワークショップにおいて私たちは子供たちとの会話に不慣れで、十分活動手順が伝えられないことがあった。
- ・工作の作成時間に個人差があったため、予定通りにワークショップを進行することができなかった。
- ・ワークショップの参加者を募るためにチラシを作成し配布したものの、準備に取り掛かるのが遅くなって開催日が迫っての配布になってしまった。

【良かった点】

- ・子供たちに興味を持ってもらえるような雑誌を作成し、ワークショップを開催することができた。
- ・ワークショップを通して海岸をきれいにするという意識を持ってもらうことができ、地域の子供たちと交流することができた。
- ・私たち自身も企画を進めていく中で、より理解を深めることができた。

【まとめ】

海岸のものを使ってワークショップを開いたことで、海岸の漂流物やゴミの実態を分かりやすく伝えることができた。また、私たちも苦戦しながらも小学生と触れ合うことができたのでとても良い経験になった。ただワークショップを開いて終わりではなく参加者が今後海岸をきれいにしようという意識をもってもらうために、私たちは調査から始め工作物のアイデアや工夫を考え、興味を持ってもらえるような活動がこの一年間を通じてできたのではないと思う。地球環境学科の学生としてこの活動を通じて学んだことを今後の GREEN project の活動に活かしていきます。